

総合防災訓練実施!

防災部会長
長谷川 具章

9月15日(日)、環境整備終了後に日置地区総合防災訓練が実施されました。火災通報避難訓練、防災リーダーによる防災研修と非常食の試食体験、可搬ポンプを使用した放水消火訓練が行われました。

火災通報避難訓練は、日置地区公民館から体育館への避難訓練です。

体育館での防災研修は、防災リーダーの房安太さんが講師となり、「日置で災害が起こった時、あなたは？」をテーマに災害への備えの研修が行われました。各集落の災害ハザードマップが配布され、災害時の危険箇所、避難路、避難場所等のことや、災害時に自分がどのような行動を行うかなどについて、参加者自らが考える学習が行われました。また、各集落の自主防災部の代表者が、地区の危険箇所や避難行動等の現状について述べ、意見交換を行うなどにより、災害に対する認識を深めることができました。

非常食の試食体験は、赤十字奉仕団の皆さんのご協力により、あらかじめ用意されたアルファ化米ごはんの試食が行われました。災害時には、アルファ化米のパックの中にカセットコンロ等で沸かした熱湯を注いで、20分程度できあがりです。水の場合は約60分できあがります。簡単でおいしく食べられる非常食で、参加者全員が1パックずつ持ち帰りました。

放水消火訓練は、第五分団の協力・指導を受けながら、各集落の自主防災部の皆さんに可搬ポンプあるいは消火栓を使用した訓練を行っていただきました。可搬ポンプのエンジンはスムーズに稼働し、消火ホースの結合に特に留意しながらホース2本を延長した後、火災を想定した「的」に勢いよく放水するなど、日頃の訓練の成果が十分に発揮されました。自主防災部の役割は初期消火です。万が一火災が発生した場合は、安全管理を第一に初期消火にあたっていただきたいと思います。

今回の総合防災訓練は、昨年を大幅に上回る78名の皆さんに参加いただきました。また、鳥取市自主防災会連合会地区防災訓練助成金支援により、ハンド型ワイヤレスマイク、カセットガスコンロ、ガスボンベ、5ℓやかん、アルファ米非常食等の購入整備を行うことができました。



近年災害が頻繁に発生しています。今年も1月1日の能登半島地震、8月の宮崎県日向灘を震源地とする地震(震度6弱)と南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)の発表、9月の台風10号による全国的な豪雨災害と秋雨前線に伴う局地的な豪雨災害などが起こっています。災害は忘れた頃ではなく何時でも起こり得る状況になってきているといえます。日頃の防災訓練を通して、災害への備えと地域の防災を支える人材確保へつなげるなど、今後とも、地域の皆さん一人一人の行動とご協力をお願いします。

今後の予定

- ❖第1回収穫祭実行委員会:10月3日(木)
- ❖一括交付金検討委員会:10月10日(木)
- ❖地域の未来づくり懇談会:10月11日(金)
- ❖健康づくりウォーキング:10月19日(土)
- ❖城北文化祭:10月26日(土)、27日(日)
- ❖子どもの城北交流:11月1日(金)
(わしの子教室やってみよう!デー)
- ❖ひおき収穫祭:11月17日(日)



日置地区総合防災訓練における非常食試食体験を実施して

青谷町赤十字奉仕団 長谷川美代子

去る9月15日、日置地区まちづくり協議会主催による防災訓練が実施されました。防災訓練は、災害のために平時から備える事が求められます。

今回、災害時に役立つ非常食(アルファ化米)作りを青谷町赤十字奉仕団7名と地区有志3名計10名のメンバーで担当する事になりました。非常食については、ご飯、蒸しパン、焼きそば、カレー等、色々ありますが、この度はわかめご飯を用意しました。アルファ化米は、お米・具材等の材料が耐熱性ポリ袋に入っています。お米に具材(わかめ)を入れて、お湯を記している線まで入れ、15分~20分待って出来上がりです。この方法を防災研修の会場で実演、作り方の説明とデモンストレーションを参加者に伝えるように行いました。

その後は約80名の参加者全員に、事前に用意したわかめご飯の試食体験をしていただきました。作り方は簡単ですが、実際に災害になれば慌てるものです。非常時に落ち着いて対応が出来るように、防災研修・防災訓練は行っておきたいものです。



環境部会

秋の環境整備

9月15日(日)



体育館周囲の草刈り

前日まで猛暑の晴れ続きだったのに、なぜかこの日は朝から雨模様。小雨決行で作業をするうちに一時本降りになりましたが、終わるころには雨も上がり、今度は雨上がりの蒸し暑さに襲われ…。2週間後の運動会に備え、悪天候の中、念入りに環境を整えていただきました。皆様、本当にお疲れさまでした。(参加者57名)



体育館外回りの清掃



体育館東側花壇の整備



グラウンドの草刈り

R6資源回収ボックス実績

資源回収収益金

(単位:円)

	R6.1月~3月	4月	5月	6月	7月	8月
古紙 (段ボール・新聞・雑誌)	4,380	2,040	1,680	1,240	1,570	1,970
アルミ缶	1,635	1,170	954	804	852	984

※上記収益金は、まち協会に繰り入れます。

※古紙回収の実績に対して交付される「鳥取市再資源化等推進事業奨励金」は青谷小中学校PTAに寄付します。

特産品部会

手作りみその樽開け

例年、10月頃から樽開けを始めます。

グループでみそ作りをされた方は、公民館に集まって、樽開け、みそ分けの作業をお願いします。希望の日時を公民館にお知らせください。

また、2月9日のみそづくり教室で、個別の容器に仕込んで持ち帰り、自宅で熟成させている方も蓋を開けてみてもよいです。

美味しいみそになっていることでしょう。

生活交通検討会 青谷バスアンケート

鳥取市青谷町地域生活交通協議会では、今年4月1日から鳥取市が主体となって運行を開始した「青谷バス」につき、地域住民のニーズに即した運行方法に改善していくため、「幅広く声を聞く」となりました。

まちづくり協議会としましては、地域住民の集まる事業の際、また公民館来館者などにアンケートのお願いをしていきます。

(各地区100枚)

実施期間は、9月27日(金)～10月18日(金)です。

ご協力よろしくお願いします。

福祉部会

合同ラジオ体操にぎやかに

7月27日(土)早朝、小学生12名を含む総勢49名がひおきグラウンドに集まり、ラジオ体操第1・第2で爽やかな汗を流しました。

ラジオ体操は、子どもから大人まで誰でも手軽に取り組める健康づくりです。福祉部会はこれからも、住み慣れたこの日置地域で、いつまでも元気に暮らし続けていただく為、健康寿命を延ばす取り組みを続けていきます。

健康づくりウォーキング: 10月19日(土) 9:30~

多くの皆様のご参加をお待ちしています!

※詳しくは、別紙チラシをご覧ください。



企画展「共鳴/RESONAZA」開催にあたり

あおや和紙工房
館長 国森 洋

あおや和紙工房では、ドイツ在住 アーティスト マリベル・マス氏と青谷因州和紙との交流を記念した展覧会「共鳴/RESONAZA」を開催しています。

1999年に初めてスペインリョッチャ美術学校に青谷因州和紙を提供し、60点超の版画作品に使われたことから交流が始まりました。

現在まで、スペインバルセロナ市、新宿区、京都市、鳥取市など様々なギャラリーで展覧会を開催するほか、青谷の因州和紙職人がバルセロナ市に出向き手すき実演や商品見本市の開催など、因州和紙の良さがスペインのアーティストに認められ、多くのコラボ作品が制作されてきました。

今回のマリベル・マス氏の作品は雲形定規(ドイツではブルメステル・カーブ)を使い、ダイヤモンド製の細いペンで描かれた、繊細かつ緻密な線画作品です。

観覧される方の感性やインスピレーションで個々の「共鳴/RESONAZA」を感じていただけたと思います。

作品に使われた和紙は、長谷川憲人さん、中原寛治・剛さん、故西村信吾さんが漉いた、楮紙、雁皮紙で非常に薄く漉かれておりその強靭さに驚きを感じます。

この展覧会を通じ、青谷因州和紙の素晴らしさを感じ、あらためて残さなければならぬ伝統産業、伝統技術であることを感じてもらえたら。

因州和紙は、日置の地に根付いた大切な産業であり、かけがえのない文化です。

あおや和紙工房も微力ながら因州和紙の持つ可能性を世界へPRしたいと思っています。

追)10月は毎週土曜日 午後8時まで夜間開館します。

観覧料: 300円⇒240円

